

# ハートフル・とよひら

札幌市立かっこう幼稚園 第2号 令和5年8月25日発行

## 『研究の重点』

心を動かし、思いをもって遊び込む幼児を育むための  
保育者の援助・環境の構成について探る

本園では、上記の『研究の重点』をもとに、共同研究園である認定こども園にじいろ（清田区）と連携し、日々研究・研修を積み重ねております。特に、自発的な活動としての遊びを通して、幼児が「やってみたい!」「どうしてだろう?」と心を動かし、思いをもって遊び込めるようになるための保育者の援助・環境の構成について、実践事例や週案エピソード(※)をもとに研究を進めており、今回は、週案エピソードをもとに話し合った内容をご紹介します。

(※) 週案～2週分の保育計画。その中で、『研究の重点』につながる子どもの姿をピックアップし、週案検討日に、写真も活用しながら話し合いを行っています。

下記の   の内容は、話し合いで出された意見です。

### 週案エピソード 3歳児（6月1～3週）『砂・水遊び～塩ビ管を使って～』

#### <遊びが始まったきっかけと保育者の願い>

職員の園内研修で“園庭環境の見直し”を行った際、砂場で活用する塩ビ管の数が不足しており、「長さがもう少し短いと3歳児でも扱いやすいのでは?」という意見が出されました。そこで、塩ビ管の数を増やし、長さも短いものを取り出しやすい場所に用意。すると、砂場で塩ビ管を運んで遊び出す3歳児の姿が見られるようになりました。



園内研修～園庭編～

#### 『塩ビ管を使ってみたい!』

##### ◎6月1週 <幼児の姿>

1～2人で一つの塩ビ管を持ち、砂を入れたり、砂、水を混ぜて入れたり、トンネルにしたりする姿が見られた。塩ビ管の数を増やしたことで、友達の様子を見て「やってみたい!」と思った幼児が自分の分を持って来て遊ぶことを楽しんでいた。中には、年長児の遊びを真似て、筒状の塩ビ管を立てて砂や水を入れて遊び出す子もいた。

ごちそう作り

トンネルに砂入れよう

##### <重点につながる幼児の姿は?>

- 自由に塩ビ管を使い、自分のペースでのびのびと遊んでいる姿
- 自分で道具を扱えることを楽しむ姿
- 塩ビ管の形状によって、水や砂が見え隠れするおもしろさを感じる姿
- 友達や年長児の遊びを見て、同じようにやってみる姿



##### <重点につながる援助・環境の構成は?>

- 扱いやすい塩ビ管の長さ、数の多さ→“遊びの楽しさ”
- “自発的に行動する姿”に

- のびのびとやりたいことを楽しめる場の保障(広い空間)

## 『水を流したい!』

◎6月3週 <幼児の姿>

- ・砂場は、ごちそう作りをしている幼児で場所がなかったため、砂場の横に、塩ビ管を運び、水や砂を流して遊ぶ場を作り始めた。(保育者も道具運びを手伝う)
- ・虫捕りをしていた子が、流れ出した長い水溜まりを辿って遊びに加わり、裸足になって水の感触を楽しむ姿も見られた。(保育者も裸足になって一緒に楽しむ)

砂場

せーの!



- 水を運ぶ道具を自分で選んで使っている姿
- (コースの先端より)手元の塩ビ管に水や砂を入れることを楽しむ姿
- 友達と声を合わせて水を入れる姿→**友達との触れ合いや親しみにつながる**
- 他の遊びをしていた子も遊びの場に加わる姿

- 保育者も一緒に楽しむ雰囲気づくり
- 他の幼児の目に留まりやすく、遊びに加わりやすい場と空間
- 幼児が自分で選び、取り出しやすい道具の設置
- 一人一人の楽しみどころをキャッチし、共感する関わり

## 週案エピソード 5歳児(6月2週)『チラシ棒を使った表現遊び』

<遊びが始まったきっかけと保育者の願い>

- ・チラシを細長く丸めて作る“チラシ棒づくり”に挑戦してきた子どもたち。自分で細長い棒を作れるようになった自信から、それらを遊びに取り入れる姿も見られるように。そこで保育者は、このチラシ棒を生かしながら、友達と考えを出し合って遊びを進めていけるよう、『畑のポルカ』(歌)のペープサート遊びを投げ掛けました。

## 『畑のポルカ』のペープサート作り

◎6月13日 <幼児の姿>

『畑のポルカ』の歌に合わせてペープサートを作る。自分たちで新たに歌詞を考えながら作り、降園前に学級で発表する。

<重点につながる幼児の姿は?>

- 自分たちでオリジナルの歌詞を考える姿
- 栽培活動とのつながりて、歌に親しみを感じている姿
- 年中時のペープサート作りやチラシ棒作りの経験を生かしている姿



<重点につながる援助・環境の構成は?>

- 『畑のポルカ』といった、アレンジしやすく、「次は〇番」と自分たちで続きを考えることを楽しめる曲の提示
- 年中時の経験や、栽培活動など他の活動とのつながり意識した遊びの投げ掛け

『演奏会ごっこ』・『太鼓作り』

◎6月14～15日<幼児の姿>

ペープサート用にしたチラシ棒が「指揮棒みたい!」と思い付いたA。「バイオリンにもなる!」とアイディアが生まれ、保育者が作ったバイオリンを見て真似て作ったり新たに笛を作ったりしてショーをすることになる。その後は、新たに太鼓にもなることに気づき、太鼓を作って遊ぶ。  
(保育者は、ショーを行う場所を一緒に考えたり、音が出るモノとして缶を提示したりした)

異年齢児との交流

- “バイオリン”“笛”“指揮棒”と一人一人イメージは違っても、『発表する』という一つの目的を共有して取り組んでいる姿
- 音は鳴らなくても、演奏会ごっこのイメージに浸って表現することを楽しむ姿。
- 自信满满に取り組んでいる姿
- (太鼓遊びで)音が出る嬉しさやおもしろさを感じている姿
- 一つの遊びが完結しても、その経験をもとに次の遊びにつなげている姿
- 太鼓のバチ(チラシ棒)の先にガムテープを貼るなど、いい音が出るように工夫して作る姿



いい音が鳴るよ♪

- 「こんな方法で表現できるよ」と投げ掛けるか、子どもたちから考えが出てくるまで待つか否かの見極め
- 異年齢児が互いに見合える場づくり  
→年下の幼児も、発表を見ることで、いろいろな表現に触れる機会に。

チラシ棒の先にガムテープが付いている

週案エピソード 4歳児(7月2週)『車を走らせるコース作り』

<遊びが始まったきっかけと保育者の願い>

5歳児が「みんなで楽しめることをしよう!」と学級で話し合い、『お店屋さん』を開くことに。『お店屋さん』の一つである“おもちゃ屋さん”で買った車(空き箱などの身近材で製作)を気に入って、「車を走らせたい!」という声が子どもたちから上がりました。そこで、保育者は、子どもたちの思いやイメージを実現できるように支えていくことにしました。

「車を走らせたい!」

◎7月10日<幼児の姿>

“おもちゃ屋さん”で動かせる車を買ったことから、板積み木を繋げて買った車を走らせようとする。

<重点につながる幼児の姿は?>

- 車を走らせる坂を「もっとつなげたい」と、思いをもって取り組んでいる姿
- 3歳時に積み木の坂道でミニカーを走らせた経験を思い出して取り組む姿→“傾斜があると動く”ことを感覚的に覚えている。
- ガムテープを扱う技能が身に付いてきている姿



<重点につながる援助・環境の構成は?>

- 幼児が集中して取り組める場の保障
- 「もっと坂をつなげたい」という幼児の思いやイメージを実現していくための広い空間
- 幼児の思いを聞きながら、イメージ通りの坂になるよう、場を一緒に構成

## 『動かせる車&コース作り』

◎7月11日～12日<幼児の姿>

翌日、『こびとづかん』を見ながら小人人形を作っていた子が、「小人を乗せる車を作りたい!」と、保育者と一緒に5歳児に作り方を聞きに行き、さっそく作り始める。また、「コースを作りたい!」という思いから、積み木を並べて車のコースを作り、壁やジャンプ台等、改良を重ねながら車を走らせる遊びを楽しんでいる。



- 5歳児に、車の作り方を聞きに行き、「ありがとう」を伝える姿
- 自分で考えて作ったり、コースを作り変えたりすることを楽しむ姿。
- その子なりの楽しみ方で取り組む姿  
(ex. 「ステージ上の坂では“車が走るスピード感”を、「ステージ下の積み木の壁では“手で車を動かし、壁を乗り越える楽しさ”を感じている」など)
- “コースの仕組み”というより、イメージを膨らませ、その中で自由に車を動かす楽しさを感じている姿



高いとスピードが出るよ!



○5歳児に直接教えてもらえるきっかけづくりや、5歳児の思いが4歳児にきちんと伝わる保育者の仲立ち

→遊びや関わりの広がり

○一人一人の遊びに対するイメージや楽しんでいるポイントを捉え、共感したり、見守ったりする関わり

## 《週案エピソードを通して》

学年・その子によって遊びの中で経験していることは様々ですが、どの子どもたちも、何かに心を動かし、「〇〇やりたい!」「もっとこうしたい!」という思いを膨らませ、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じています。

また、異年齢児の遊びが刺激となったり、触れ合いを通して遊びの満足感につながったりして、互いに影響し合いながら生活している様子も伝わってきます。“遊びと遊び”“遊びと活動”につながりをもたせることも、子どもの遊びへの思いや自信につながるのではないかと考えます。

そのために保育者は、「子どもの楽しんでいることは何か?」をしっかり捉え、「そのために必要な環境は何か」「遊びの場や空間はどのようにつくっていくとよいか」を子どもの思いに寄り合いながら考え、構成していくことが大切です。今後も、子どもたちが心を動かし、夢中になって遊びながら、幼児期にふさわしい園生活を送れるよう、日々研究・研修に努め、研究だより等で発信していきたいと思います。

